

終生忘れ得ぬ “二つの思い出”

中内 功

大平先生には、いつも慈父のような暖かい目差しでご昵懇にしてくださいましたが、私にはとりわけ終生忘れ得ぬ二つの大きな思い出を残して下さいました。

一つは、昭和五十二年十月十三日、当社の創業二十周年記念レセプションの日のことです。当時、先生は自民党幹事長として、特に政務ご多忙を極めておられたにもかかわらず、会場のホテルオークラに駆けつけて下さり、心のこもったお祝詞をいただきました。

「……ダイエーの驚異的發展は瞠目に値する。常人が果たすことのできなかったことを、成し遂げることはまさに英雄である。しかし、この發展を支えた多くの同志がいることを忘れないでがんばってほしい。發展には組織の肥大化がつきものである。ダイエーらしい創意と工夫で打ち勝って、さらに大なる發展をしてもらいたい。」
当社が二十周年を記念して作成したPR映画の上映を、会場の中央で終始食い入るようにご覧いただいたあとで、このように心暖まるお言葉で祝っていただきました。

諄々と説かれるそのお言葉には単なる祝意を越えて、私ども経営者が矯ることなく、日夜精進しなければならぬ心がまえをもご指摘していただき、身の引き締まる鮮烈な感銘を覚えたものです。

もう一つは、昭和五十五年五月十二日「小売業初の売上一兆円達成、中内功ダイエー社長を祝う会」当日のことです。この会は、同年当社がわが国小売業としては初めて年間売上高一兆円を突破したことを祝って、諸先輩、

知友の方々が過分の祝賀会を、ホテルニューオータニに政官界、財界、お取引先、消費者代表等二千人以上のご参会を得て催していただいたもので、これも当社にとっては発展の大きな「節目」でありました。

この時は、大平先生はもちろん総理大臣というお立場でしたが、ちょうどアメリカ、メキシコを歴訪されたあと、チトー・ユーゴスラヴィア大統領の訃報に接せられてベオグラードの国葬にご参列、さらに西ドイツでシュミット首相と会談され、「世界の太平」として名声を博して帰国された翌日のことでした。常識では考えられない強行日程をこなされて、お疲れも極限状況にあつたに相違ありませんが、当日は開会早々よりご出席いただき、あのお忙しいなかを一時間以上にもわたり、会場内で本当に楽しそうに多くの方々に、あの人なつこい笑顔で言葉を交わされていたのが特に印象的でした。

この日は、当社の一兆円達成を産業界の一大慶事と評価していただいたあと、幸田露伴の『渋沢栄一伝』を引用され、「……全ての人は『時代の子』である。しかし、時代に埋没される人もある。時代に流されてしまう人もいる。また、時代に超然たる人もいるが、反面、時代の精神を体現して時代の希望を実現して行く、時代を生かす人もある。中内さんは、その時代を生かす人である……」と、誠に身に余るお祝詞と激励をいただいた次第です。思えば、この日は大平総理がお亡くなりになられる、わずか一カ月前のことで、私にとって親しくお言葉をいただいた最後の機会でした。それだけに感銘も一人のものがあります。

いずれにしろ、当社にとつても、私にとつても、大きな「節目」ごとに大平先生に貴重なお言葉をいただけたことは、何よりの僥倖であり、何にもまさる心の財産です。大平先生のお言葉を思い出すたびに、私は産業人として生き抜く決意と自信を新たにします。

(タイエー社長)